

研究要旨

テーマ：生活習慣病に関する保健指導を実践しよう	
対象学年：中学 3 年生	教科科目：保健体育（保健分野）
使用した教材 ・お茶の水女子大学 ヒューマンライフイノベーション開発研究機構編「Q&A シリーズ生活習慣病成人期」 ・お茶の水女子大学 ヒューマンライフイノベーション開発研究機構編「Q&A シリーズ生活習慣病こども期・高齢期」 四つのトピックについて上記教材の中から以下の内容を基礎資料として活用した。 「生活習慣病・がん」⇒子 Q1, 2, 3, 4, 6, 11 成 Q2, 6, 14 「生活習慣病と食事」⇒子 Q21, 22, 23, 25, 27 成 Q14, 15, 16, 25, 26 「生活習慣病と運動」⇒子 成 Q12, 15, 18, 19 「生活習慣病と睡眠」⇒子 成 Q13, 18	
問題と目的・授業案のポイント 知識伝達型の授業に陥りやすい保健分野の授業において、生徒が必要感をもって学びに参加し、その学びの成果を主体的に表現する授業を構想することとした。また、保健分野の内容は、生徒の実生活に生かされることが重要である。したがって、学びが学校の中での知識の習得として完結するのではなく、実際の生活と密接に関連するような仕掛けを学習に組み込んでいくことが求められる。 本実践では、保健分野の生活習慣病に関する単元で、知識構成型ジグソー法を活用した授業を構想した。単元のテーマを『保健師になって生活習慣病に関する保健指導を実践しよう』と設定し、生活習慣病について学習した内容をもとに、家族に対して実際に保健指導プレゼンテーションを実践する課題を設定した。保健指導を行うためには、生活習慣病に関する内容について深く、広く学ぶ必要がある。そこで、本実践では、生活習慣病に関する四つのトピックを設定し、ジグソー学習の方式を採用して、トピックの分担をしながら深めロイロノートにまとめ、その学びをチームで共有し、チームで一つのスライドプレゼンテーションを作成することとした。チームのメンバーのそれぞれが、各トピックに関するエキスパートとなり、その学びをチーム内で共有する学習方略を採用することで、主体的・協働的に学習を展開できるようにした。 ジグソー学習の基礎資料には、生活習慣病に関する事項が端的に整理してある上述の「Q&A シリーズ」を用いた。「生活習慣病とがん」「生活習慣病と食事」「生活習慣病と運動」「生活習慣病と睡眠」の四つのトピックを設定し、それぞれに関連する Q&A のページをトピックごとにまとめて生徒に示した。また、追加資料として別添の資料一覧に示す書籍を図書室に用意し、Q&A と合わせて活用させた。 ジグソー学習の後半では、エキスパート活動の内容を班内で発表し共有させ、わかりにくかった点や「なるほど」と感じた点をワークシートにピックアップさせ、自分自身の家庭での保健指導プレゼンテーションにつなげられるようにした。また、班で作成したスライドプレゼンテーションを他の班と共有するクロストークの場面を設定し、自分の班とは異なる視点からの学びを共有できるようにした。	



実践結果と考察

本実践で知識構成型ジグソー法を採用し、保健指導の実践という形で授業での学びを発揮する機会を設けたことで、生徒は受け身の学びではなく、自分から保健に関するトピックに関心を持ち、自分なりの視点を持ちながら学びを深めることができていた。また、班のメンバーがそれぞれオリジナリティのある視点からスライドをまとめたことで、班内での共有やクロストークにおいて、新しい発見があり、自分が深くリサーチしていない内容についても関心をもって吸収しようとする姿勢が感じられた。また、授業での創り上げたスライドプレゼンテーションを、家族を対象に実践してみたことで家族からの感想も得られ、新たに追究すべき課題を見つけることができた生徒もみられた。

本実践の課題は、トピックごとの資料の精選である。今回は四つのトピックに関する資料を「Q&A」に加え、司書の先生に協力を仰ぎ、図書室の書籍、近隣図書館の書籍を準備した。多様な情報からトピックについてまとめることができる一方で、本質的な内容から少し離れた視点からスライドをまとめた生徒もみられたため、資料の内容を精選し、ある程度絞った形で提示することを検討する必要がある。

大学や他校園との接続や連携に関する示唆

ジグソー法を用いた学習は、保健分野以外でも活用できる学習方略である。エキスパート活動において、大学教員へのインタビュー調査を行うなどの連携により、より深い学びに発展させることや、高等学校の探究科などに関連を図り、汎用的な力としての探究力を育む実践につなげていく可能性も考えられる。

今後の展開の可能性

今回は「生活習慣などの予防」の単元を取り上げたが、今後他の単元でのジグソー法を用いた実践を検討したり、ジグソー法以外のアウトプット型の学習方略を用いた実践を検討したりすることで、問題解決型の学びの可能性を広げることができると考えられる。